11.住み続けられるまちづくりを

2025年度藤沢市民講座「誰もが自分らしく暮らせるまちへ:藤沢発・共生社会のつくり方―看護医療学部開設25周年に向けて―」開催

2025年11月、湘南藤沢キャンパス(SFC)にて、2025年度藤沢市民講座を開催しました。本講座では、「医療的ケア児や障害のある方、自宅療養者が地域で暮らし続けるための支援」、「孤独・孤立の予防に向けて善行団地を舞台に看護学と社会学の視点から進められてきた地域参加型研究(CBPR)」、「地域福祉の視点から『社会的つながり』がもたらす影響」などを全3回にわたって取り上げました。藤沢市や地域の福祉・看護関係者と共に、誰もが自分らしく暮らせる協生社会の実現に向けて連携して取り組む意義を考える機会となりました。

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議から提出された提言の中から審査を経て採択されたものは、学生が主体となる「塾生会議プロジェクト」として具体化され、様々な活動へと発展していきます。

慶應生と日吉の街の交流プロジェクト

SDGsゴール11「住み続けられるまちづくりを」の実現のため、慶應義塾が地域社会で果たすべき役割を学生と地域住民の交流を通じて考えながら、「近くて遠い慶應義塾大学」から「街の誇りの慶應義塾大学」へと変革していくことを目指すプロジェクトです。日吉キャンパス近隣の小学生を対象としたイベントや地域行事への参加を通して、学生と地域住民が自然に交流できる機会を創出します。

2025年11月と2026年2月、小学校1・2年生を対象とした「大学生ブックキャラバン」を実施し、それぞれ50～60名が参加しました。本企画は、慶應義塾の学生がキャンパス近隣の小学校や学童を訪問し、本をテーマにしたワークショップを実施することで、本や大学を身近に感じてもらうことを目的としています。11月は、絵本の読み聞かせを通してSDGsについて学んだ後、小学生がSDGs達成のために自分ができる行動を考え、絵で表現する「SDGsカレンダーづくり」を実施しました。2月には、SDGsをテーマにしたカルタを通して学んだ後、子どもたちが学んだ内容の中から伝えたいことをクイズにする「SDGsカルタ&クイズ大会」を実施しました。SDGsカルタは放課後キッズクラブおよび日吉台小学校へ寄贈し、イベント後も多くの子どもが継続してSDGsについて楽しく学べる環境づくりを目指しました。

2025年8月には、普通部通りで開催された夏祭りに学生スタッフとして参加しました。当日は、SDGsに関するクイズを掲示したブースを設置し、正解者がスタンプを押すSDGsスタンプラリーの台紙を印刷したうちわの配布を行いました。祭りを楽しみながらSDGsについて学ぶ機会となっただけでなく、地域住民が主体となって開催する行事に慶應義塾の学生が参加することで、地域と学生の交流機会にもなりました。



SDGsカルタで遊ぶ児童



クイズ発表の様子

「慶應義塾と戦争―モノから人へ―」大阪特別企画展を開催

2025年7月10日～8月31日、慶應大阪シティキャンパスにて、大阪特別企画展Ⅲ「慶應義塾と戦争―モノから人へ―」を開催しました。戦後80年を迎え、戦争を実体験として語ることのできる人が少なくなる中、慶應義塾福澤研究センターでは、2013年より「慶應義塾と戦争」アーカイブ・プロジェクトを発足し、戦争期の慶應義塾に関する資料の収集や所在把握を継続して行っています。本企画展では、昨年三田キャンパスで開催された企画展のダイジェスト版に加え、大阪会場のみで公開される新資料も展示しました。残された資料を通じて、戦争の記憶を次世代へどのように受け継ぎ、過去から何を学ぶことができるのかを考える機会となりました。



戦争の記憶を伝える当時の資料

慶應義塾図書館旧館ナノブロック進呈

2025年11月、慶應義塾では、「KEIOみらいストーリーズ（みらい共創資金）」の寄付特典として、慶應義塾図書館旧館を再現したオリジナルナノブロックを期間限定で進呈しています。1912年に創立50年記念事業の寄付金によって建設された図書館旧館は、国の重要文化財にも指定されている歴史的建築物です。慶應義塾の歴史と伝統を象徴する建物を寄付者への記念品として形にすることで、慶應義塾の文化資源への関心を高めるとともに、学生の学びを支える「社中協力」の精神を次世代へ継承しています。

また、ナノブロックは環境負荷低減にも配慮しています。レンガ部分には製造過程で廃棄される樹脂を活用したリサイクルプラスチックを使用しており、資源の有効活用に貢献しています。特殊な成形技術により、一粒ごとに微妙に異なる色合いが生まれ、本物のレンガ造りを彷彿とさせる世界に一つだけの風合いを楽しめる仕様となっています。



図書館旧館ナノブロック

慶應義塾図書館所蔵「論語疏 巻第六」が国宝に指定

2026年3月、文化審議会の答申が出され、慶應義塾図書館所蔵の「論語疏 巻第六」が、重要文化財指定から1年を経て、年内に国宝に指定されることが決まりました。本資料は、中国南北朝末から隋時代の6世紀頃の写本とみられ、『論語』の紙の伝世写本としては世界最古とされる貴重な典籍です。慶應義塾では、「慶應義塾大学論語疏研究会」を組織し、部局の枠を越えて調査・研究を進めてきたほか、早稲田大学等の協力も得て検証を重ねてきました。今回の国宝指定は、慶應義塾が培ってきた学術研究と、文化財保存・発信に向けた取り組みが結実したものです。今後も、世界的に価値ある学術・文化遺産の適切な保存と公開・活用に努めていきます。


「論語疏 巻第六」